

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	どんぐり発達支援寒川			
○保護者評価実施期間	2025年11月27日		～	2025年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2025年11月27日		～	2025年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	0～2歳児5名定員の家庭的保育室との、併設事業所である。	保育室が同じ施設内にあることで、より温かみのある雰囲気生まれている。0歳児からの育ちを知ること、発達の見通しがつきやすくなっている。	2施設合同で、保護者も含めて参加できるイベントを定期的で開催することで、職員同士の絆をさらに深める。夏祭り、クリスマス会、お別れ会など、職員同士のチームビルディングで、リラックスした雰囲気の中でコミュニケーションが取れるようにする。
2	保育士の専門性を持ち、きめ細かい観察と支援が可能。	小規模、小集団であることを活かし、地域の公園や季節のイベント(獅子舞)等に出掛けやすい。	保育士と発達支援の職員が定期的に情報共有し、子どもの発達段階に応じた最適なアプローチを協力して行っていく。
3	小規模・小集団の環境で手厚い支援を行い、地域の安心感につながっている。	児童発達支援が保育室の近くにあることで、子どもが成長していく過程で必要なサポートを長期的に受けることができる。社会性や生活力を学びながら、発達支援を通じて、言語や認知面、運動面の発達をさらに支援でき、スムーズに次の発達段階に進むことができる。	地域密着で、子どもたちが日常的に多くのひとと接する機会を作っていく。家庭での発達に関する不安や問題を、地域全体で早期に発見し、早期に発見された課題に対して、すぐに児童発達支援を通じて、子どもの発達を最適にサポートしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等

1	事業所までの階段が不便。室内が1部屋で、職員数も多いことで狭い。	階段での送迎が不便である。手厚い職員配置で、支援の充実を図っている。	駐車を近接地に確保することにより、負担を軽減出来るようにしている。室内の整理整頓を心がけ、段差を使つての収納を取り入れている。子どもたちが屋外で過ごす時間を増やすことで、室内の圧迫感を減らすことができると考え、季節に応じた屋外遊びや学習活動を行っている。
2	他事業所との連携	地域の課題	地域の関連機関や近隣事業所と連携し、定期的に情報交換を行っている。保護者が情報を集めたり、研修に参加する機会を得たりしやすいよう、支援時間を延長するなどしてサポートしている。
3	防災安全	非常時の対応	建物全体の安全について、情報を共有し改修を行う。